



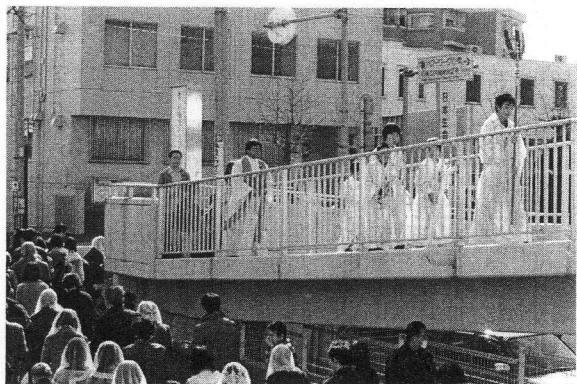
奉仕のころ

ここにきて七年目が始まった。今まで住んだところは、小神学校、ローマ、小教区（助任司祭）教区事務所、再び小神学校：今いるところは主任司祭として二番目の小教区。七年目は一か所の滞在期間としては新記録。

今日は「侍者」について書いてみよう。以前は「ミサ答え」などと呼んでいた。ミサ典礼の奉仕をしてくれる少年少女のこと。

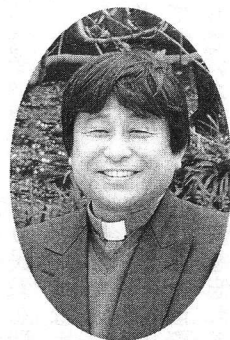
この教会に来て間もないころミサが終わった後だったが、一人の侍者に何か用事を頼んだとき：何を頼んだかは忘れたがその少年は「いいよ。でも、いくら（お金！）くれる？」と返事をした。わたしはちよっとキレ

て：「そんなんだったら、してくれなくていい。何かもらうためにするんだったら、しなくていいよ」と少し強い口調で言った。



受難の主日（枝の主日）の行列

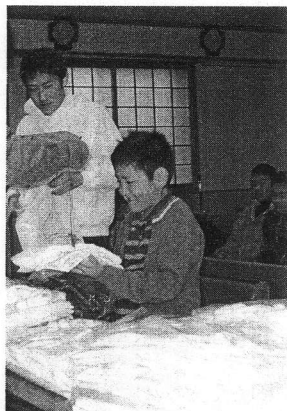
それから侍者を再編成した。ほんとに手伝いたい気持ちのある人は：手伝ってください、と。「奉仕」っていうのは、見返りを求めないことだから。エサで釣るようなことはしない。：。神さまが手伝って、って頼んでるんだから、神さまのお手伝いをしたい人はよろしく、という感じ。ご褒美はなし（といってもクリスマスプレゼントとお年玉はあるが：）。ミサや典礼が終わったら毎度「ありがとう。みんなが手伝ってくれて助かるよ」と礼をする。ある日、土曜日の主日の前日のミサが終わった後、そのように言ったら「神父さんいつもそう言うね」と言うから「だって、いつもそう思ってるも



やまもと まこと
山元 眞 神父

ん」と答えた。彼は「ふう〜ん」と言った。この子はほとんどの日曜日にクラブ活動や試合があるので、ミサに来ることはできない。だから土曜日の夜に来る。部活で疲れているのに：。ありがたなことだ。

このような侍者の奉仕を見て小教区創立五十周年の機会に一



新しい侍者服と十字架の授与式

人の方が新しい侍者服を寄付してくださった。別の方は靴を。

侍者にも「気合い」が入った。あらためて入会式をして、アシジの聖フランシスコの十字架を



復活徹夜祭の光の行列

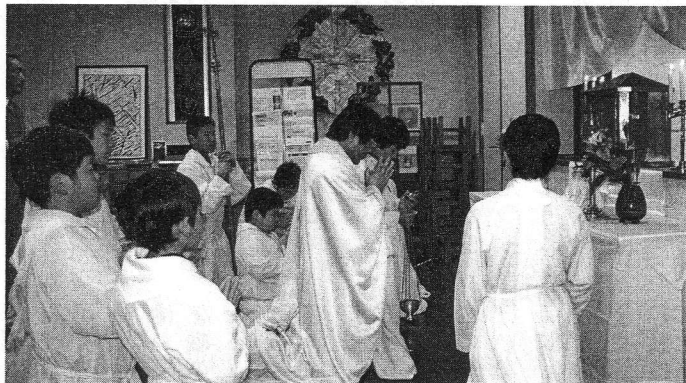
首にかけるようにした。奉仕の精神を大切にできるようにと…。 典礼委員の一人のお父さんが指導をしてくださっているのので助かる。司祭は事前にポイントだけ打ち合わせていればいい。親の協力も不可欠。聖週間やクリスマスには全員集合をかける。

典礼が始まる一時間前に集合。司祭がいなくても打ち合わせができる。司祭は「よろしく」と声をかければいい。「よっしゃ!」という感じなので安心。しかし本番でミスをするのは決まって司祭。「トシ」を感じる…。ミサや典礼の準備はすべて典礼委員と侍者がする。片づけも。司祭は司祭だけにしかできないことをすればいい。助かる。

侍者会（奉仕者会と呼ぶようにしているが、なかなか定着しない…）はいい意味でタテ社会。できる子ができない子に、知ってる子が知らない子に伝えていく。最近はこのようなグループが減っているような気がする。伝えることの大切さを思う。教会は、いろんなことが伝えられてきた社会だから。

今年の聖週間の聖なる三日間の典礼から二人の奉仕者がデビューした。不慣れな、それでいて時間がかかる典礼。一人の子は慣れない侍者服のせい、初日の聖木曜日の典礼では「ため息」が聖堂中に響いていた。そ

れでも頑張つて翌日の聖金曜日の典礼では静かにできた。よほどの事情がないかぎり全員が聖なる三日間の典礼に参加する。



聖木曜日の聖体安置式

部活の子も走ってくる。最近聞いた。6人の侍者が「神父になりたい」そうだ（秘密…）。まだまだ「修業の身」。彼らへの感謝と期待は大きい。

【ブログ <http://micheleyam.exblog.jp>】

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

(株) 沼崎商会
サマリア式典部 沼崎 馨